

介護保険事業計画に記載した「取組と目標」等の取組状況及び自己評価結果等（令和6年度分）

市町村名

瀬戸内市

◎ 市町村介護保険事業計画に記載した「取組と目標」に関する評価等

1 自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
介護予防	介護予防普及啓発	新規立ち上げ教室数 5箇所(115教室) 参加人数 1,075人	集いの場の候補地の核となる人に声掛けを行ったが、なかなか立ち上げまで至らなかった。新規立ち上げ教室は、令和6年度立ち上げは、2箇所(113箇所)であった。 参加人数は、継続教室参加者は、新規立ち上げ教室参加者も含め、1,017人であった。	新規立ち上げ教室は、目標の5教室より下回った。参加実人数も、目標値1,075人で、新規立ち上げ教室同様、目標を下回った。	地域の中で、新しく取り組もうという地域の発掘が出来ておらず、地域への働きかけを継続し、関係性を築いていく必要がある。地域性(高齢化率、介護認定率等)を見たり、地域ケア個別会議等から、必要な地域に立ち上げの検討していく。
介護予防	介護予防普及啓発	男性参加割合18%、65歳未満の参加割合3%	男性参加者割合を増やすため、男性の参加者いる高齢者学級に出向き普及啓発を行ったり、10月を参加者増やそう月間とし、増えた教室には特典を用意し、取り組んだ。期間中に参加者が増えた教室は6箇所、人数は8人増、そのうち男性は1名。 男性参加率:17% 65歳未満の参加者割合:2.3%	男性参加者割合の目標値18%でやや下回った。65歳未満の参加者割合の目標値は3%でやや下回った。	65歳未満の参加者が少なく、担い手不足に対し、70歳のつどいや新しい体操を検討し、若い世代の方に関わっていただけるような仕組みを検討していく。
介護予防	地域介護予防支援	介護予防リーダー登録数 80人	今年度は、介護予防リーダー養成研修を行わず、介護予防リーダー養成講座を受けたが活動していない介護予防リーダー(不活発リーダー)の発掘に力を入れた。 不活発介護予防リーダーが参加しやすいよう、健康意識を高める講座を3回開催。また、体操を復習する講座を開催し、延105人の方が参加した。 介護予防リーダー登録数 48人	健康教室として、健康意識を高める講座には、不活発リーダーの方も参加されたが、なかなか介護予防活動まで繋がることはなかった。また、介護予防リーダーの方も高齢となり、登録する人(介護予防手帳所持者)も少なくなってきたおり、新たな担い手の発掘は必須である。	介護予防リーダーの活動を継続するには何が必要か、検討していく。また、1年ぶりに介護予防リーダー養成研修を実施するため、参加者の意向をスタッフ間で共有しながら、丁寧に関わっていき、より多くの登録を目指す。

2 介護給付の適正化に関する取組と目標

分類	項目名	目標(数値等)	実施内容・実績	自己評価	課題、今後の方針等
給付適正化	要介護認定の適正化	2,200	調査票全件について、内容を精査した。 また、認定調査に同行し、現場の確認も1件行った。 調査票総数:2229件	目標は達成。調査票の誤り等は正ができた。また、事務担当者も調査に同行し、認定調査の状況も確認した。	引き続き調査票は細かく精査していく。
給付適正化	ケアプランの点検	7,051	市内の指定居宅介護(予防)支援事業所及び(看護)小規模多機能型居宅介護事業所に対し、ケアプランの点検を行った。 点検件数:34件	R6年度より(看護)小規模多機能型居宅介護事業所も点検対象に加えたことで、市内全事業所のプランを幅広く点検することができた。	前年度からどのように変化したかを確認しながら、フォローアップにつなげていきたい。
給付適正化	医療情報との突合・縦覧点検	全件	医療との突合:955件 縦覧点検:1,578件	医療との突合と一部の縦覧点検については国保連合会に委託、その他については国保連合会での審査情報をもとに市で点検を行い、誤った請求については是正した。	今後も現在と同様に点検を行い、誤った請求を是正する。
給付適正化	社会福祉法人等による利用者負担減額措置制度の促進	制度の周知に努め、低所得者で生計が困難な利用者の負担を軽減し、介護保険サービスの利用促進を図る。	認定:1件	制度に関しての問い合わせがあった際には、相手の立場に立って、分かりやすく丁寧な対応を心掛けた。	市ホームページ等で周知していきたい。